

あきらさん! 159って どんなクルマ なんですか?

Text / Akira Takei [竹井あきら] Photo / Banko Gojo [五條伴好]



はい、159はいいクルマだと思います。

この前身に当たる156がギャランドゥ、いやいやべつに毛の話ではなく、悔しいけれどお前に夢中なタイプだったってことですが。振動も突き上げも一般的なレベルをオーバー。渋滞中はセレスピードならさもありなん、MTでもストローク手前の踏みごたえがブカッとしたブレーキのおかげで、ギクシャクしっぱなし。今どき渋滞がこれほど苦痛なクルマもないんじゃないかと。うちの駐車場は安いところを探し出しただけあってひどい環境で、車庫入れ時にいったん段差に乗り上げてまた降りる必要があるんだけど、ここで愛しの156ちゃんはきまってミキミキミキ〜と「ワタクシ只今ボディがひしゃげております」という悲鳴を上げておりました。

それでも、そんなでも、クルマを降りる時はどういわけだかいい印象しか残らないのが156だった。軽やかな加速。太く高く吠える音の波に飲み込まれていく時に感じる切ないほどの高揚感。ゆらりと鼻先をコーナーに向けてはロールしていくコーナーリング時の、ヒヤリにも似たひらり感。

高回転というよりもそのちょっと手前、中の上あたりをキープし続ける時の脳に染みいる心地よさといい。ああ、ギャランドゥ。

そういえば忘れちゃいけないのが156の目張りの効いたスタイル。ムキムキと筋肉質な曲線美に惹かれて、それまでアルファに興味などなかった層までギャランドゥに手を出してしまった。おかげで累計台数は全世界で68万台、日本だけでも1万7000台あまりという。アルファ乗りといえどクルマオタクっぽい匂いがしたのだけど、おしゃれなだけで乗ってる人比率が高くなったのもまた156の仕業。

ずいぶん大人びた印象

さて、156からみつつ数字が増えて159である。156の直後の後継モデルでありながら、157じゃないのは、やっぱり後継モデルを持たない166の後継になっているからなんだろう。ぎりぎり150番台、もうすぐそこは160番台っていうイメー



ジ? ボディサイズもまた156以上166未満ってところで、いやあ立派になりました。156と較べると全長が225mm、全幅が73mmサイズアップしたにもかかわらず、全高が抑えられているためか、もっさりした印象がないのはさすがジウジアー口さま。あからさまな曲線美は脱ぎ捨て、躍動感を内包する平面構成なのがオトナの魅力である。いわびたびたのシャツのボタン3コ開けから胸板を感じさせるシックなスーツ姿へってところ。剥きだしのランプが左右に3つずつ並ぶ眼光は鋭くて、あたしゃヘビににらまれたカエル。もうちょっとでアルファの紋章そのままに、ア〜レ〜と飲み込まれ



156のテーマをベースに、よりモダンに仕上げられた室内。標準は布製シートだが、オプションパッケージ“トゥーリズム”を選ぶとチベットレザーシートが、同“フレッチャ・ドーロ”もしくは“ヴィラ・デステ”を選択するとボルトローナ・フラウ社製レザー仕上げシートが装着される。ちなみに試乗車にはトゥーリズムが奢られていた。

てしまうかというところ。

ドアを開ければぱっちり定番のアルファワールド。ウネのくっきりとしたタイトなレザーシートに身を沈めれば、インパネはドライバーを囲みこむ。ドアの内張の革もまた、斜めに走るステッチが美しく硬く盛り上がるウネをつくる。サイズアップして居住空間は広くなっているのだけれど、タイト感はなくならないのがうれしい。156でコードっぽく目についたアルミ調の銀色塗装は、まだやりようがありそうながらもかなり質感を上げている。

ステアリングコラムの右手、キーボックスの下に位置するスタート/ストップボタンを押し、エンジンをスタートする。あれ、かかんかったかともう一回押してみる。……えへ、2度押ししちゃいました。せんせーい、アルファのくせにアイドリングが静かです！ 振動もないしエアコンの音かと思っただよ、まったく。

走りはじめてもアルファのイメージからはありえない乗り心地。フツーンにいいクルマなんである。ミシミシなんてとんでもないってレベルで、コーナリング中にも剛性高いんだなーと感心させられつつ、しかも硬めな乗り心地ながら気に障るような突き上げも振動もない。つまりは高剛性ボディに上等なアシってことでございます。156からひとクラス上がったのはボディサイズだけじゃなかった。

街乗りはすごくラクになった。低回転域から充分に力があるので、テキトーなシフトでも受け入れてくれるし、シフトダウンし損ねてもなんなく前進してくれる。MTが6段になったのもラクになった要因かもしれない。100km/h巡航でのおよその回転数は、4速で3800、5速で3200、6速で3000rpmを下まわる。まだまだいけるし、充分快適なののご想像いただけるだろう。そして、たぶんその想像以上に室内は静か。街乗りも高速でのロングツーリングも我慢がいらぬアルファなん

て、夢みたい。

我慢がいらぬことでは同じだけれど、さびしかったのはエンジンの回転数の上がり様である。シュンと上がってやや尻すぼむ、だからひよんどシフトアップがしたくなる、そんなアルファ独特のまわりっぶりは払拭されて、きちんきちんと上までまわるようになった。いや実質的にはぜんぜん困りはしないんだけど、そういうきちんとさをアルファに求めてなかったもので、ついうろたえて涙ぐんでしまいました。

で、みなさまご心配のハンドリング。はい、こちらはちゃんとアルファです。ゆらりとコーナーにしなだれかかっていくあのかんじは健在。鼻先から順繰りに入って行って、すつと背筋を伸ばしながら抜けていく。この図体でありがたいほどにシャープで爽快なハンドリングだと思う。しかも156でやや鼻についた風味調味料山盛りの濃さはなく、ちゃんとした剛性感がベースにあるシャー

プさなのがオトナだ。

薦められるクルマになった

ご周知の通り159はすでにご破算となったGMとの提携のもとでつくられたクルマ。プラットフォームとエンジンブロックはGM製である。忘れ形見のブロックにアルファのヘッドを載せ、忘れ形見のプラットフォームにイタルデザインのボディをかぶる。それでこんなにバリッとした正常進化するアルファの男前ができるとなると、びっくりさせられたGMとの提携も、あながち外してなかったのかと知らされる。ていうかアルファってヤワじゃないんだなあ。

サラリーマンが手を出せるやんちゃアイテムとしての役割もまた、アルファに求めるもの。これだけクラスアップしているながら新車価格は399万円と、排気量アップ分を考えれば、ほぼ据置きな価格設定もうれしい。159は、走りで買って、見た目だけで買って、家族が勝手に買ってきちゃっても、みんなが納得できる、得がたいアルファだと思えます。



ボディ(全長4690×全幅1830×全高1430mm)が156に較べ大幅に拡大しているが、街中での運転は意外とラク。ただレドッドが広いので、一部のタワーパーキングではバレットに収まらないこともある。2006年式 159 2.2 JTS 走行距離:0.4万km 車検有効期限:2009年2月 価格:369万円 車両協力:アルファ・ロメオ田園調布 アプルーブドカーセンター Tel.03-3721-1565